

[横浜能楽堂]
令和5年度業務報告及び収支決算
[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]

※ 文中の事業欄において、
●:主催事業 ○:共催事業
を示します。
※ 文中の達成指標欄において、
□:定量的指標 ■:定性的指標
を示します。

1 施設の概要

施 設 名	横浜能楽堂
所 在 地	横浜市西区紅葉ヶ丘 27—2
構 造 ・ 規 模	鉄筋コンクリート造 地上2階地下2階建
敷 地 ・ 延 床 面 積	延床面積 5,695.93 m ²
開 館 日	1996年(平成8年)6月 28日

2 指定管理者

法 人 名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所 在 地	横浜市中区山下町2番地
代 表 者	理事長 近藤誠一
設 立 年 月 日	平成3年7月 10日
指 定 期 間	令和4年4月1日から令和9年3月31日まで
現 指 定 管 理 者 の 管 理 運 営 開 始 日	平成8年6月 28日

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1) 基本的な方針

横浜能楽堂は、能楽を中心とした古典芸能の専門施設として古典芸能の普及と振興を通じて地域に貢献し、市民に信頼と期待を寄せられる横浜にとって欠くことができない拠点施設となることを目指します。これまでの運営経験とノウハウを活かし、次の5つの方針で施設の管理運営と事業実施に取り組みます。

1. 横浜能楽堂ならではの事業企画による能楽の普及と新たな観客の創造

能楽ファン向けの本格的な公演や初心者でも楽しめる工夫を凝らした普及公演、またワークショップや能楽講座など多彩なラインナップで幅広い観客の期待に応える事業を実施します。

2. 次世代育成事業の実施と次代を担う人材への働きかけ

学校や地域と連携し、子どもの創造性や感受性を育む事業を実施します。事業の企画力を担保するために職員の専門能力を高めます。

3. 利用者ニーズに沿った貸館対応と広報による施設の利活用の促進

稽古や発表会でも使いやすい施設となるように利用者の利便性を高め、また効果的なPRにより利用者を増やします。

4. 能楽堂の価値の発信を続け、エリアの魅力づくりにも貢献

文化財としての能舞台の保存と活用のバランスを取りながら、見学会等を通じて能楽堂という建物自体の価値を高め、能楽堂ファンを増やします。周辺文化施設と連携し、紅葉坂エリアの魅力づくりにも寄与します。

5. 施設の安全安心を確保し、安定的な経営を実現

施設の適切な管理、効率的な業務の実施、財源の確保、職員の効果的な配置により、施設経営の基盤を整えます。

(2) 令和5年度の業務の振り返り

ア 全体について

大規模改修工事を控えた本年は、開館以来の横浜能楽堂の存在感を市内外や地域にアピールするとともに、休館期間及びリニューアルオープン後の展開を見据えた取り組みを行いました。

自主事業では、横浜能楽堂ならではの企画力を生かした公演を行うとともに、鑑賞サポートや参加しやすさ、低料金などを行うことで、これまで同様横浜能楽堂や能・狂言へのアクセスをしやすくしました。

来館促進事業については、施設見学会や、入門的な事業と施設見学を組み合わせた事業などにより、休館前に多くの方に足を運んでいただけるようになりました。

施設管理については、開館27年目を迎える施設や整備の老朽化や不具合が進行していますが、日常点検を適切に行い、休館までトラブルなく施設運営を行うことができました。

イ 使命1 能、狂言その他の古典芸能の振興・発展に寄与する

能楽や古典芸能の既存のファンに向けた本格的な公演のみならず、ファンや古典芸能そのものに親しんでもらう普及事業において、一定の成果を得られたと自負しています。

企画公演「この人 この一曲」での能の見巧者それぞれの能への視点が、観客に新しい見方をもたらし、5回シリーズで行った「中締め」公演では、開館以来の集大成として、能・狂言だけでなく、雅楽、琉球芸能、日本舞踊、声明を新しい形で見せることができました。両シリーズとも、新聞や専門誌に評論が掲載され、アンケートで2年半後の再開館に向けた期待を書かれるお客様もいらっしゃり、休館前にふさわしいシリーズとすることことができました。

普及公演では、定番化した狂言堂に新たな観客を呼び込むために、令和4年度に継続して若手狂言師に密着したプロモーション動画を製作しました。SNSを中心に広報を行い、取り上げた狂言師が

出演する回では、新規観客を増加させることができました。新しいツールをすることで、チケット購入のわかりにくさなどの課題が見つかったほか、新しい連携先が見つかるなど、他の効果も得られることができました。

シリーズで行っていた「芸術監督講座」は、内容を明確にして広報したこと、当初の想定どおり、能・狂言を知らない参加者を多く集め高い満足度を得ました。

能・狂言の企画公演などは、友の会などの既存顧客や能・狂言関係の情報サイトなどに掲載することで、観客に情報を届けられていますが、普及公演などで新たな観客を呼び込む場合、ターゲットになかなか届かないという課題があります。今回の狂言堂では、主に x(旧:Twitter)での広報を試みましたが、その他の SNS(Facebook, Instagram, TikTok)はそれぞれ利用者が異なり、好む情報が異なっています。すべてに対応していくことは難しいため、ある程度ターゲットを絞った上で狙った層にダイレクトに訴求できるよう、戦略をもって対応していくことが必要だと考えます。休館中は、公演等のコンテンツを作ることはもちろんのこと、発信の仕方などの工夫もしていきます。

ウ 使命2 能楽等に携わる人材を育む

こども狂言堂や、こども狂言ワークショップ、教育プログラムなど、継続して取り組んでいる事業のほか、新規の取り組みを行いました。こども狂言堂や、こども狂言ワークショップは、継続して実施しているものの、こどもが入れ替わっていくため、券売率や参加率は目標を上回っています。「夏休みこども相談会」は新規取組で、オンラインフォームで質問を受け付けました。能・狂言への新たなアプローチとして、今後やり方を検討しながら継続していく予定です。

エ 使命3 能楽等をはじめとする市民の活動の場となる

休館に際して、施設利用者に対しては、ニーズの聞き取りなどを行い、代替施設の情報を提供しました。施設の貸し出し手続き以外の対話を利用者としたことで、今後も継続しうる関係性の構築につながりました。

休館中も1年に一回程度、お知らせを送るなど「再開館時に戻ろう」と思ってもらえるような関係性を継続します。施設自体は稽古場としては利用しやすいものの、アクセスの悪さから敬遠されることも考えられるため、それを乗り越える施設の魅力を伝えていく必要があります。

横浜能楽堂でしかできないこと、横浜能楽堂を利用したいと思われる施設の魅力を休館中に開拓していきます。

オ 使命4 能楽等や施設の魅力の発信を行う

休館を意識して、横浜能楽堂や能舞台そのものの魅力を伝えることに注力しました。施設見学会や、入門的な事業と施設見学を組み合わせた事業などにより、多くの方に足を運んでいただけるようになりました。特に12月の特別見学会では、近隣を中心に広報したため、はじめて来館した方が58%、西区・中区からの来場者が全体の30%を占め、より多くの方に知っていただくことができました。

横浜能楽堂の魅力については、SNSを活用し、単独の事業にとどまらない形で発信しました。また、横浜能楽堂の能舞台だけでなく、館内すべての魅力を伝えるため、映像作家に依頼し、動画を製作しました。

歴史ある能舞台を持つ施設であることを、休館前に職員が再認識できることで、再開館に向けて何を伝えていくべきか、また休館中にどのような事業をどういった層に向けて行っていくべきかを意識することができ、未来を見据えた事業と施設運営をすることができました。

能舞台の魅力を伝えることで、足を運んでいただけるきっかけになると考えます。令和6年度より開始するOTABISHO(おたびしょ) 横浜能楽堂で、模型や動画を使って魅力のアピールをしていきます。

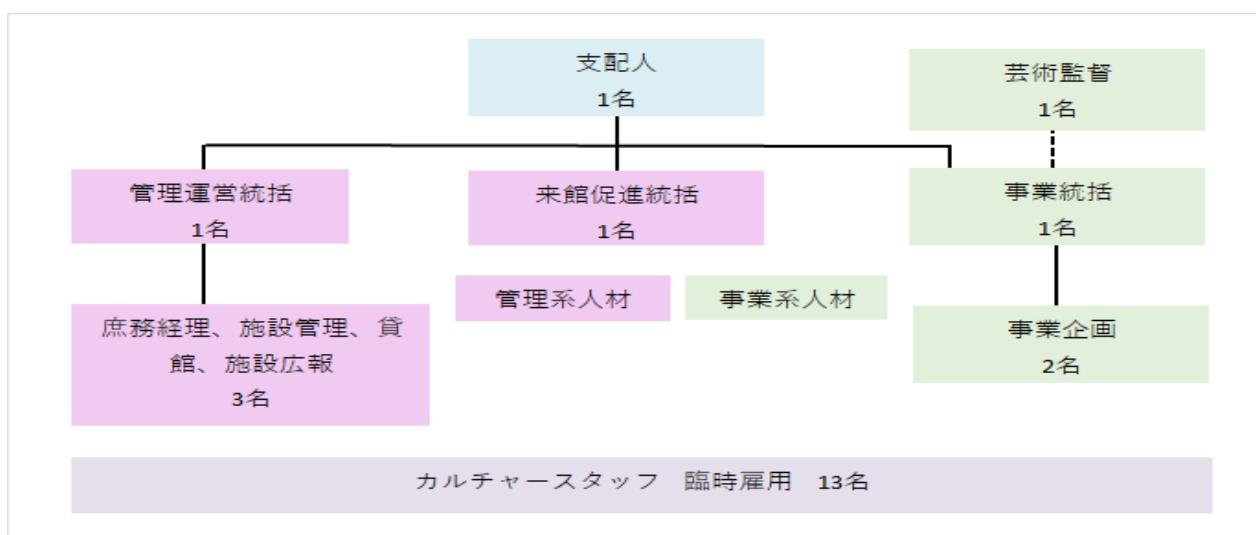
カ 使命5 持続可能性を高める施設運営を行う

開館27年目を迎える施設や設備の老朽化や不具合が進行していますが、日常点検を適切に行い、休館までトラブルなく施設運営を行うことができました。

キ 使命6 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する

5月に5類に移行したため、手指消毒やマスク着用などの掲示は終了しましたが、引き続き換気等に留意した運営をしました。

4 運営組織の構造、人員配置



横浜能楽堂全体の統括責任者として“支配人”を配置し、施設経営全体を統括します。“芸術監督”を配置し、能楽・古典芸能の専門施設としての芸術面での監修責任者とします。

支配人の下に、庶務経理・施設管理・貸館・施設広報を実務統括し、支配人を補佐する“管理運営統括”を配置、“事業統括”と“来館促進統括”を置いて事業を担当します。日常の運営は支配人が統括しますが、勤務シフト上不在の場合には管理運営統括(または来館促進統括)が代行し、有事の際には支配人及び財団事務局等と連携し、迅速に対応します。

5 令和5年度の業務の取組

(1) 文化事業

主催事業では、横浜能楽堂ならではの企画力を生かし、能楽爱好者に横浜能楽堂の存在感をアピールする公演を実施しました。能楽だけでなく、当館が実施してきた日本の伝統芸能の今を体感できる、「開館28年謝恩 横浜能楽堂『中締め』特別公演」を全5回開催したほか、能楽研究者などが独自の視点で一番見たい演者と曲を選び、選んだ理由を語ったのち、能を上演する「この人 この一曲」を実施しました。本公演に関連して、1回目の公演で使用した装束の特別展示を展示廊で行い、本舞台有料公演の日以外、9~18時まで館内見学を受け入れました。字幕解説の配信、公演に先立った解説動画の公開など、能楽ファンだけでなく初心者でも来場しやすいよう鑑賞サポートを引き続き行い、新たな鑑賞者も取り込みました。

これらの企画公演で、従来のお客様に満足いただけたほか、評論家などにも企画性の高さで評価いただきました。また、異ジャンルとのコラボレーションや、装束の展示などにより、新しいお客様を迎えることができ、休館前に横浜能楽堂の魅力をアピールすることができました。

横浜狂言堂を引き続き実施したほか、若手狂言師の動画を製作しSNSで発信した結果、初めての来場者を増やすことができました。70回を迎える横浜能ではシテ方五流が出演し仕舞や舞囃子など能楽の様々な楽しみ方をお見せしました。次世代育成として子どもたちの創造性を育む公演やワークショップ、学校や教員と連携した事業を実施しました。

(2) 能楽や古典芸能の公演、稽古等への施設の提供(施設運営)

令和5年度は、既存の施設利用者へ休館中に利用できる他の施設の情報提供等に取り組みました。近隣施設の情報をとりまとめ、各団体に説明し、施設によっては、下見などの対応を依頼しました。能楽堂と同様とはいえないものの、各団体新たな稽古場を確保する支援を行いました。

(3) 来館促進プロモーション事業

横浜能楽堂は、歴史ある能舞台を中心とした施設そのものにも魅力がありますが、休館中は見学ができないこともあります。令和5年度は施設見学会に力を入れました。毎月の見学会に加えて、まいらんと連携した特別施設見学会では地下の木の貯水槽見学や、12月の休館前には予約不要の特別施設見学日を設け、楽屋の自由見学と芸術監督による解説なども同時に行い、新しい試みも行いました。

また、施設見学会付きのワークショップやオープンデーなど横浜能楽堂の魅力を伝える事業に引き続き取り組みました。

(4) 施設管理

令和6年1月からの大規模改修工事に向け、必要な修繕や定例の設備保守について設置者と協議連絡のうえ適切に執り行いました。休館まで事故のないよう、安心・安全な施設の維持に重点的に取組みました。

(5) 収支

令和5年度は、多くの公演でチケットが完売したこともあり事業収入が、予算を超える結果となりました。また、大型の利用が入ったことなどにより、利用料金収入も予算以上を計上しました。

(6)各種計画書・報告書の作成及び業務評価

令和5年度は、業務計画書や完了確認表など各種帳票の作成を適切に実施しました。

(7)その他

令和5年度は、プロデューサー(古典芸能)など職員の専門人材としての育成に継続して取り組みました。また大学等との連携も、4大学で実施しました。

6 使命の指標の達成状況と重点的取組事項

(1) 使命1 能、狂言その他の古典芸能の振興・発展に寄与する

ア 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成指標	R8 実績
1	事業のメニューの実施数	7メニュー	8メニュー	8メニュー			11メニュー	
2	自主事業の入場者数	9,432名	7,600名	8,387名			9,500名	
3	入場者の満足度(アンケート調査)	4.67	4.5以上	4.68			4.5以上	
4	総来場者数	13,790名	13,600名	13,972名			18,000名	
5	各事業のターゲット設定及び事業参加者数に対するターゲットとなる参加者の割(アンケート集計)	①鑑賞経験あり	88.7%	特別公演&企画公演70%以上	86.9%		特別公演&企画公演70%以上	
		②鑑賞経験2回以内、初来館	27.5%	普及公演20%以上	20.5%		普及公演30%以上	
		③実技初心者	98%	能楽ワークショップ、講座50%以上	96%		能楽ワークショップ、講座50%以上	
6 ★	「バリアフリー能」への鑑賞サポートツール導入数	37件	35件以上(2年間累計)	(実施なし)			100件以上(5年間累計)	
7 ★	公演事業の設定座席数に対する入場率	83.8%	80%以上	92.6%			85%以上	
8 ★	解説動画視聴数	5,201回	2,000回以上(2年間累計)	14,054回			5,000回以上(5年間累計)	

イ 定性指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	入場者の声(アンケート及びインタビュー調査)	R4実績	アンケート自由記入欄意見を全員で回覧、担当にて課題抽出
		R5達成指標	来場者インタビュー、アンケート自由記入欄意見の運営への反映
		R5実績	アンケート自由記入欄意見を全員で回覧、担当にて課題抽出
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	来場者インタビュー、アンケート自由記入欄意見の運営への反映
		R8実績	
2 ★	「バリアフリー能」に関する福祉団体等インタビュー調査	R4実績	調査を元に既存サポートに加え、「なんでもシェア会」や送迎車サービスを実施
		R5達成指標	サポート導入に反映
		R5実績	休館のため実施なし。R6以降WSの際実施。
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	サポート導入に反映、被評価
		R8実績	

ウ 使命1を達成するために重点的に取り組む事項

横浜能楽堂の企画力を活かしたここでしか見られない公演を開催し、お客様に新しい古典芸能の楽しみ方を提供しました。狂言堂では、2回目となる紹介動画を作成し、対象が出演する月の動画では、初めての来場者を増やしましたが、休館前ということもあり、既存のお客様にも多くご来場いただきました。そのほか、ワークショップや講座、展示などを実施し、能楽へのアプローチを拡げました。バリアフリー能については、令和5年度は開催ませんでしたが、公演時の車椅子席を全公演で用意したほか、手話通訳を入れた施設見学会を実施しました。

(2) 使命2 能楽等に携わる人材を育む

ア 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成指標	R8 実績
1	次世代育成を目的とした事業の実施回数	11回	計9回	12回			計10回	
2	参加者の満足度(アンケート調査)	4.84	4.5以上	4.79			4.5以上	
3 ★	「こども狂言堂」設定座席に対する入場率	87.1%	90%以上	91.3%			90%以上	
4 ★	「先生のための狂言講座」の参加者数	87名	100名以上	70名			120名以上	
5 ★	学校見学会、教育旅行の問い合わせ数	10件	3件	6件			5件	
6 ★	狂言「柿山伏」を使った取組	準備中	3件 (2年間累計)	準備中			5件 (5年間累計)	
7 ★	プロデューサーによる「WEB版研紀要」掲載	ブログ執筆済、掲載準備中	4本以上 (2年間累計)	2本			10本以上 (5年間累計)	

イ 定性指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	参加者の声(アンケート及びインタビュー調査)	R4実績	アンケート自由記入欄意見を全員で回覧、担当にて課題抽出
		R5達成指標	インタビュー/アンケート自由記入欄意見の運営への反映
		R5実績	アンケート自由記入欄意見を全員で回覧、担当にて課題抽出※
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	インタビュー/アンケート自由記入欄意見の運営への反映
		R8実績	

※「先生のための狂言講座」／アンケート自由意見欄について

<肯定的な意見多數>

「実際の演技と東次郎先生の素晴らしい講義の二つ、充実した内容で大変勉強になりました。」

「狂言で大切にしていた「言葉の力」のお話に感銘を受けました。子どもたちは思ったことをすぐに言葉にしてしまいがちです。受け取り手の心を大切にしている、ということを教育の現場でも取り入れていきたいです。」

<課題と思える意見>

「ぜひこの企画を続けて、多くの先生方に参加していただきたいです。」

意見を踏まえ、令和6年度は、従来の横浜市内の学校への案内に加え、SNSでの広報を予定です。

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組む事項

子どもの創造性を育む次世代育成事業を実施しました。子ども向け公演、ワークショップ、学校アウトリーチ、教員向け講座、相談対応、学校見学会の受け入れなど、学校などとの連携強化に重点的に取り組みました。また分かりやすい公演プログラムの作成、ホームページでの古典芸能に関するブログの公開や、新聞記事執筆(公開は令和6年度)、解説動画制作(使命1にも該当)を通じて、職員の専門能力の向上も図りました。

(3) 使命3 能楽等をはじめとする市民の活動の場となる

ア 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成指標	R8 実績
1	貸館利用者数	34,750名	34,000名	41,564名			38,000名	
2	利用者の満足度(アンケート調査)	アンケート未実施	施設の快適性への満足度4.0以上	4.6			施設の快適性への満足度4.0以上	
3	貸館利用の相談/広報支援件数	10件	相談10件以上	10件			相談20件以上	
		23団体、59件	広報支援20団体、30件以上	24団体、102件			広報支援20団体、30件以上	
4 ★	本舞台、第二舞台の利用率(日換算)	40%	本舞台39%以上	53%			本舞台40%以上	
		60%	第二舞台52%以上	67%			第二舞台55%以上	
5 ★	利用料金収入額	12,989,435円	11,100千円以上	13,715,025円			16,000千円以上	
6 ★	新規利用向け割引制度利用実績	12件	20件以上(2年間累計)	15件(累計)			60件以上(5年間累計)	

イ 定性指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	利用者の状況についての現状把握(利用者との意見交換等)	R4実績	稽古場代替施設に関するヒアリング:19団体
		R5達成指標	利用者インタビュー:年10団体以上(新規団体を含む)
		R5実績	稽古利用団体にアンケート実施:16団体※
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	利用者インタビュー:年15団体以上(新規団体を含む)
		R8実績	

※稽古利用団体アンケートにおける主な意見

R5年6月から利用手続きを変更したことについては、満足度4.2(満足5~不満1)となりました。「書類が増えて煩雑になった」という意見はあったものの、「事前利用内容が確認できてよい」という意見がそれを上回りました。

<改善要望>

「開催事業にかかわらず、なるべく会議室等の利用が可能であることを願っています。」

自主事業が入っている日は、動線の関係で研修室の貸し出しができない運用でしたが、意見を踏まえ、再開館時に改善できないか検討します。

ウ 使命3を達成するために重点的に取り組む事項

横浜市内では貴重な和の空間であり、能楽以外でも、また個人でも利用できる施設であることをホームページを通じて紹介するなどし、初めての利用を促進する割引制度の活用につなげました。休館に向けて、利用者がスムーズに他の施設を利用できるようニーズの掌握、市内のお稽古場等について情報収集し、冊子の形で情報提供しました。

(4) 使命4 能楽等や施設の魅力の発信を行う

ア 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成指標	R8 実績
1	媒体ごとの 広報実績数	新聞・雑誌	49回	35回 以上	72回		50回 以上	
		広報よこはま	5回	6回 以上	4回		6回 以上	
		広報よこはま 西区版	7回	6回 以上	4回		6回 以上	
		地域情報誌	36回	15回 以上	6回		20回 以上	
		SNS(X、 Facebook、 Instagram)	238回	250回 以上	499回		350回 以上	
		他社WEBサイト	68回	10回 以上	205回		20回 以上	
2	能楽等や能 舞台、能舞 台の歴史・ 魅力を発信 する事業数	オープンデー	1回	1回	1回		1回	
		定例見学会	9回	7回	9回		9回	
		特別見学会	3回	3回	4回		3回	
		バリアフリー 見学会	2回	2回	2回		2回	
		多言語対応 見学会	2回	1回	1回		2回	
		学校見学会	6回	6回	5回		6回	
		旅行企画見学会	0回	0回	1回		2回	
		和のものづくり、 ワークショップ、 見学会	10回	4回	8回		6回	
3	アフターコン ベンションの アプローチ 件数	問い合わせ、 見学	3回	5回 以上	7回		7回 以上	
4 ★	「伝統文化一日体験オープンデー」 参加者数	725名	400名 以上	1,156名			450名 以上	
5 ★	「和のワークショップと能楽堂見 学」初来館率	28%	40% 以上	30.1%			50% 以上	
6 ★	横浜能楽堂の市民認知度	59.8%	65% 以上	60.9%			70% 以上	
7 ★	「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」での 連携取組	3件	5件以上(2 年間累計)	6件 (累計)			12件以上 (5年間累 計)	

イ 定性指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績						
1	広報手法の 分析	R4実績	分析手法についてリサーチを検討					
		R5達成指標	実施					
		R5実績	狂言堂動画配信の際、SNSコンサルタントによる支援により、効果的な発信を行い 効果分析を行いました。※					
		R6実績						
		R7実績						
		R8達成指標	実施					
		R8実績						

2	アフターコンベンションメニューへの意見	R4実績	企業・旅行業者からの問合せ 3 件
		R5達成指標	旅行会社、会議運営会社、横浜コンベンションビューロー他から意見聴取し、メニューに反映
		R5実績	休館のため当該実績なし。
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	旅行会社、会議運営会社、横浜コンベンションビューロー他から意見聴取し、メニューに反映
		R8実績	

※広報手法の効果分析の概要

・X(旧:Twitter)での反響○、YouTube での反響○、サイト側の反響△

(動画関連で 7 週間合計 リポスト数 523 引用数 12 いいね数 1506 表示数 233,521)

X(旧:Twitter)での反響ほど、YouTube の視聴には結びつかなかった。その要因として、YouTube のサムネイルやタイトルの改修が必要だが、改修のタイミングが X(旧:Twitter)反響時点より遅かったためと思われます。

ウ 使命4を達成するために重点的に取り組む事項

オープンデーや多彩な施設見学会、VR などデジタルコンテンツを活用した施設案内など、施設の魅力を伝える事業に引き続き重点的に取り組みました。能楽に限定しない興味に応えるために、和のワークショップシリーズ等を開催し、幅広い市民に来館のきっかけを提供しました。職員の意見を取り入れて横浜能楽堂の魅力を発信する動画を製作しました。

(5) 使命5 持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成指標	R8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0 件	0 件	0 件			0 件	
2	法定点検等の実施率	100%	100%	100%			100%	
3	修繕予算の執行率	24.6%	90%	30%			90%	

イ 定性指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	R4実績	アンケート自由記述欄を参考に、大規模改修の要望等検討
		R5達成指標	アンケート(来場者&施設利用者)、施設利用者インタビュー実施
		R5実績	施設利用者アンケート実施:16 団体※
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	アンケート(来場者&施設利用者)、施設利用者インタビュー実施
2	管理運営費推移の要因分析	R4実績	空調の運用見直し、植栽管理や設備管理の委託項目の精査を行った。
		R5達成指標	毎年度半期毎に分析実施
		R5実績	光熱水費についてモニタリングで推移と要因を報告
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	毎年度半期毎に分析実施
		R8実績	

※施設利用者アンケートにおける主な意見

「和式トイレを残してほしい」という要望については、再開館のトイレ改修に反映しました。

ウ 使命5を達成するために重点的に取り組む事項

施設の老朽化、光熱水費の高騰に加え、半導体の不足による照明器具など修繕・更新に必要な消耗品類の入手が難しくなるなど、施設管理への影響が懸念されましたが、12月までの運営は利用者・来場者への影響なく無事に運営することができました。

令和5年度 横浜能楽堂会計 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額			決算額			差引			説明
	通常 (A)	移転費 (B)	合計 (C=A+B)	通常 (D)	移転費 (E)	合計 (F=D+E)	通常 (G=A-D)	移転費 (H=B-E)	合計 (I=C-F)	
指定管理料	183,070,000	15,280,000	198,350,000	183,070,000	15,280,000	198,350,000	0	0	0	
利用料金収入	11,100,000	0	11,100,000	13,715,025	0	13,715,025	-2,615,025	0	-2,615,025	本舞台本番利用の増などによる
自主事業収入	31,704,000	0	31,704,000	36,219,556	0	36,219,556	-4,515,556	0	-4,515,556	企画公演・特別公演の券売好調
雑入	26,620,000	0	26,620,000	24,472,989	0	24,472,989	2,147,011	0	2,147,011	
自動販売機手数料	300,000	0	300,000	372,676	0	372,676	-72,676	0	-72,676	
その他（コピー代、炭代）	133,000		133,000	177,100	0	177,100	-44,100	0	-44,100	
その他（開催協力金・助成金）	26,187,000	0	26,187,000	23,853,213	0	23,853,213	2,333,787	0	2,333,787	
その他（企業協賛金・寄付金）	0	0	0	70,000	0	70,000	-70,000	0	-70,000	
収入合計	252,494,000	15,280,000	267,774,000	257,477,570	15,280,000	272,757,570	-4,983,570	0	-4,983,570	

支出の部

科目	通常 (A)	移転費 (B)	合計 (C=A+B)	通常 (D)	移転費 (E)	合計 (F=D+E)	通常 (G=A-D)	移転費 (H=B-E)	合計 (I=C-F)	説明
人件費	83,028,000	0	83,028,000	83,648,327	0	83,648,327	-620,327	0	-620,327	
給与・賃金	68,541,000	0	68,541,000	69,365,963	0	69,365,963	-824,963	0	-824,963	配置人員による実績
社会保険料	9,250,000	0	9,250,000	9,193,099	0	9,193,099	56,901	0	56,901	
通勤手当	2,203,000	0	2,203,000	2,080,780	0	2,080,780	122,220	0	122,220	
健康診断費	71,000	0	71,000	27,092	0	27,092	43,908	0	43,908	
労働者福祉共済掛金	54,000	0	54,000	54,000	0	54,000	0	0	0	
退職給付引当金繰入額	2,909,000	0	2,909,000	2,927,393	0	2,927,393	-18,393	0	-18,393	
事務費	5,644,000	14,830,000	20,474,000	16,382,337	17,729,268	34,111,605	-10,738,337	-2,899,268	-13,637,605	
旅費	300,000	0	300,000	327,232	14,603	341,835	-27,232	-14,603	-41,835	移転費)引越等にかかる旅費
消耗品費	1,000,000	300,000	1,300,000	1,049,033	289,854	1,338,887	-49,033	10,146	-38,887	移転費)仮事務所消耗品
広告宣伝費	400,000	0	400,000	142,180	0	142,180	257,820	0	257,820	
印刷製本費	100,000	200,000	300,000	72,270	98,098	170,368	27,730	101,902	129,632	移転費) 移転挨拶状等
通信費	1,000,000	0	1,000,000	973,750	159,450	1,133,200	26,250	-159,450	-133,200	移転費) 仮事務所電話代
使用料及び賃借料	1,064,000	2,580,000	3,644,000	1,683,899	4,054,530	5,738,429	-619,899	-1,474,530	-2,094,429	
横浜市への支払分	14,000	0	14,000	0	0	0	14,000	0	14,000	
その他	1,050,000	2,580,000	3,630,000	1,683,899	4,054,530	5,738,429	-633,899	-1,474,530	-2,108,429	移転費) 事務所・倉庫等賃借
備品購入費	0	1,000,000	1,000,000	0	864,600	864,600	0	135,400	135,400	移転費)仮事務所備品
図書購入費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
施設賠償責任保険	100,000	0	100,000	80,316	32,733	113,049	19,684	-32,733	-13,049	移転費)仮事務所分
職員等研修費	0	0	0	5,000	0	5,000	-5,000	0	-5,000	
振込手数料	300,000	0	300,000	347,325	0	347,325	-47,325	0	-47,325	
リース料	1,180,000	0	1,180,000	1,179,792	0	1,179,792	208	0	208	
手数料	100,000	0	100,000	92,373	13,380	105,753	7,627	-13,380	-5,753	
負担金、会費	0	450,000	450,000	0	0	0	0	450,000	450,000	共益費は家賃に含む
雑支出	100,000	0	100,000	347,167	0	347,167	-247,167	0	-247,167	
その他（移転費、事務所改装費、引越し代）	0	10,300,000	10,300,000	10,082,000	12,202,020	22,284,020	-10,082,000	-1,902,020	-11,984,020	移転費)事務所改装費(執務エリア面積按分)、引越し代
事業費	66,196,000	0	66,196,000	61,807,808	0	61,807,808	4,388,192	0	4,388,192	
自主事業費	66,196,000	0	66,196,000	61,807,808	0	61,807,808	4,388,192	0	4,388,192	旅費、委託費等見直したため
管理費	72,632,000	450,000	73,082,000	69,465,627	790,235	70,255,862	3,166,373	-340,235	2,826,138	
光熱水費	16,070,000	450,000	16,520,000	15,839,287	790,235	16,629,522	230,713	-340,235	-109,522	
電気料金	11,400,000	450,000	11,850,000	11,426,537	790,235	12,216,772	-26,537	-340,235	-366,772	移転費)2-3月基本使用料、仮事務所電気代
ガス料金	3,420,000	0	3,420,000	2,787,907	0	2,787,907	632,093	0	632,093	
水道料金	1,250,000	0	1,250,000	1,624,843	0	1,624,843	-374,843	0	-374,843	
清掃費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
修繕費	3,000,000	0	3,000,000	908,182	908,182	2,091,818	0	2,091,818		
機械警備費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
設備保全費	53,562,000	0	53,562,000	52,718,158	0	52,718,158	843,842	0	843,842	
空調衛生設備保守	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
消防設備保守	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
電気設備保守	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
害虫駆除清掃保守	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
駐車場設備保全費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他保全費	53,562,000	0	53,562,000	52,718,158	0	52,718,158	843,842	0	843,842	
舞台技術費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
共益費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
公租公課	8,589,000	0	8,589,000	6,860,137	52,850	6,912,987	1,728,863	-52,850	1,676,013	
事業所税	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
消費税	8,563,000	0	8,563,000	6,763,798	0	6,763,798	1,799,202	0	1,799,202	
印紙税										